

平成18年度 岐阜県高等学校新人バスケットボール大会
 兼 東海高等学校新人バスケットボール大会県予選会
 最終日:平成19年2月4日(日)
 会場:岐阜メモリアルセンターふれ愛ドーム

男子の部

<審判>

5位決定戦 中京 80 $\left[\begin{array}{l} 15-18 \\ 13-21 \\ 27-27 \\ 25-11 \end{array} \right]$ 77 大垣商 岩永英夫・大豆村斉

決勝リーグ 岐阜農林 97 $\left[\begin{array}{l} 26-9 \\ 29-17 \\ 16-24 \\ 26-17 \end{array} \right]$ 67 大垣南 室谷伸治・後藤慎二
 (2勝) (2敗)

第1ピリオド、岐阜農林は⑨古田のポストプレー、④小栗の3点シュート、⑥木村の速攻でペースをつかむ。さらに⑦伊藤、⑮川崎らが得点し、26-9と大きくリードした。第2ピリオド、岐阜農林は⑥木村、⑨古田らの活躍でさらにリードを広げ、55-26で前半を折り返した。大垣南は相手の激しいディフェンスに苦しみ、なかなかシュートまで持ち込めないものの、隙をついて⑥福島、⑧奥田、⑯桂華がシュートを決める。

後半、岐阜農林は、⑯今井、⑮川崎らがインサイドで攻守にわたる活躍を見せ、⑭滝沢の3点シュートなどで前半のリードを守り、97-67で勝利し決勝リーグ2勝目をあげた。岐阜農林は、力強いディフェンスや全員が走りきる速攻に、優勝を目指す気持ちが表れていた。大垣南も、④岡村、⑦飯沼らのシュートで追いつがるが、及ばなかった。(長屋 貴)

決勝リーグ 岐阜総合 79 $\left[\begin{array}{l} 22-10 \\ 13-18 \\ 20-12 \\ 24-22 \end{array} \right]$ 62 斐太 松野瑞穂・山田祐治
 (2勝) (2敗)

両チームともマンツーマンディフェンスでスタートする。序盤は両者激しいディフェンスで、シュートがなかなか決まらない。速攻で先に流れをつかんだ岐阜総合は、⑥上村、⑬長尾の速攻、⑪田代の3点シュートなどでリードを奪う。第2ピリオド、岐阜総合のシュートが落ち始めると、斐太は⑧富士本の3点シュート、⑩洞口のジャンプシュートなどで、一時は3点差まで詰め寄る。しかし岐阜総合も⑪田代の3点シュート、⑫寺井のドライブなどで応戦し、前半は35-28と岐阜総合が7点リードして折り返す。

第3ピリオド、岐阜総合は再び速攻でリズムを取り戻し、⑯桐山のポストプレー、⑪田代の3連続3点シュートなどでリードを広げていく。第4ピリオド、岐阜総合は⑫寺井、⑬長尾の速攻などで一気に勝負を決める。シュート力に勝る岐阜総合が、最後はベンチメンバーを全員出場させて79-62で勝利し、決勝リーグ2勝目をあげた。斐太は身長の高いチームだが、粘り強くディフェンスを頑張り⑧富士本の3点シュート、⑮和田の速攻などで最後まで闘ったが、力尽きた。(後藤智憲)

決勝リーグ 岐阜農林 75 $\left[\begin{array}{l} 21-13 \\ 16-12 \\ 10-16 \\ 15-21 \\ 13-6 \end{array} \right]$ 68 岐阜総合 小牧秀則・棚橋英一
 (3勝) (2勝1敗)

両チームともここまで圧倒的な強さで勝ち上がり、最終戦が優勝をかけた決戦となった。第1ピリオド、岐阜農林は⑦伊藤、⑨古田がインサイドで得点をあげ、流れをつかむ。岐阜総合も⑫寺井の速攻や⑬長尾のドライブで対抗する。序盤は21-13と岐阜農林がリードする。第2ピリオドに入っても岐阜農林は⑦伊藤、⑤多治見のシュートで点差を広げ、前半は岐阜農林が37-25と12点リードして折り返す。岐阜総合は⑪田代が3連続でシュートを決めるも、大事なところでミスが出て追い上げられない。

第3ピリオド、岐阜総合は1-3-1ゾーンで相手のシュートを押さえ、⑥上村、⑬長尾の3点シュートや⑫寺井の速攻で追い上げる。第4ピリオドに入っても、岐阜総合は2-2-1ゾーンプレスからトライアングル2で相手のアウトサイドシュートを押さえ、⑭岡島のリバウンドシュートなどでじわじわと追い上げ、残り2秒にはついに⑬田代の3点シュートで同点に追いつき、延長戦に突入する。

延長に入って両チームともプレッシャーからフリースローがなかなか決まらないが、岐阜農林は⑨古田がリバウンド、ブロックショット、ジャンプシュートとインサイドで頑張りを見せ、⑥木村を軸に最後まで走りきって75-68で勝ち、6年ぶりの優勝を果たし古豪が復活を遂げた。岐阜総合も最後まであきらめずに戦ったが、大事なところでシュートミスが響いた。(岩永英夫)

決勝 リーグ	斐太	76	$\begin{bmatrix} 12 - 12 \\ 25 - 10 \\ 21 - 20 \\ 18 - 24 \end{bmatrix}$	66	大垣南	大江裕之・西尾司

ともに2敗で迎えた最終戦。東海大会出場をかけた1戦となった。第1ピリオド、斐太は⑦島中を中心にじっくりとボールを回して展開すれば、大垣南は⑩桂華のドライブ、⑥福島のリバウンドシュートで応戦し、12-12と互角のすべり出しであった。第2ピリオドに入ると、斐太は⑮和田、⑭水谷の3点シュートなどで得点を伸ばし、オールコートマンツーマンディフェンスで相手のミスを誘い、前半を37-22と斐太が15点リードして折り返す。

第3ピリオドに入っても、斐太は着実にゲームをコントロールしながら、⑧富士本の2本の3点シュートなどで得点する。大垣南は④岡村のドライブや⑥福島のポストプレーなどでリズムを取り戻すが、点差を詰めるまでに至らない。第4ピリオド、斐太は相手のゾーンプレスに苦しみながらも、粘り強いディフェンスと落ち着いた攻撃で相手の追い上げをかわし、斐太が76-66で勝利して東海大会出場権を得た。大垣南もゾーンプレスで必死にプレッシャーをかけ、④岡村が第4ピリオドだけで13点をあげる活躍を見せたが、及ばなかった。(鈴木雅雄)

女子の部

<審判>

5位決定 戦	加茂	80	$\begin{bmatrix} 14 - 14 \\ 22 - 14 \\ 18 - 19 \\ 26 - 15 \end{bmatrix}$	62	多治見西	早野宏樹・杉山秀謙
決勝 リーグ	岐阜女子	169	$\begin{bmatrix} 55 - 14 \\ 37 - 13 \\ 33 - 18 \\ 44 - 12 \end{bmatrix}$	57	県岐阜商	細井恒樹・小森邦弘

第1ピリオドから、岐阜女子は激しいオールコートマンツーマンディフェンスで相手のターンオーバーを誘い、④伊藤のドライブ、⑥茅谷のゴール下シュート、⑤水谷の3点シュートと次々に得点をあげ、一方的な展開で55-14とリードを奪う。第2ピリオドに入っても、⑦汪のポストプレー、⑭宮部のジャンプシュート、④伊藤の3点シュートと攻撃の手を緩めない。県岐阜商もマンツーマンから2-3ゾーンとディフェンスを変え、⑤梶野のドライブや⑭渡邊の3点シュートで得点をあげるも、相手の厳しいディフェンスを攻められない。前半を終わって、92-27と岐阜女子が大差をつける。

第3ピリオド、岐阜女子はベンチメンバーでスタートするが、スピードある攻撃で⑧斬、⑭宮部、⑰荒井、⑱徳らが次々とシュートを決め、さらにリードを広げる。第4ピリオドに入っても岐阜女子のペースは変わらず、厚い選手層と力強いディフェンスとスピードのある攻撃で相手を圧倒し、169-57で勝利して決勝リーグの2勝目をあげた。県岐阜商も⑫羽賀、⑭渡邊、⑮宮ノ脇らがシュートを決めたものの、全国トップレベルの力に屈した一戦であった。(宮崎泰彦)

決勝 リーグ	高山西	69	$\begin{bmatrix} 11 - 20 \\ 20 - 19 \\ 20 - 10 \\ 18 - 14 \end{bmatrix}$	63	岐阜総合	藤浪元明・長屋 貴
	(2勝)				(2敗)	

第1ピリオド、両チームともマンツーマンディフェンスでスタートする。岐阜総合は⑫前田のドライブや3点シュート、④嶋内のジャンプシュートで順調に得点を伸ばす。対する高山西は⑦畦地のゴール下シュートや⑨藤井のジャンプシュートで対抗するも相手の動きの良いディフェンスを攻めきれない。第1ピリオドは岐阜総合が9点のリードを奪う。第2ピリオドに入っても岐阜総合は⑫前田の3点シュート、⑬酒井のジャンプシュートで加点する。高山西もディフェンスをゾーンに変え、⑦畦地のリバウンドシュート、⑨藤井のジャンプシュートで追い上げ、互角の展開となる。前半は岐阜総合が8点リードで折り返す。

第3ピリオドに入ると、高山西は⑥室谷のジャンプシュート、⑦畦地のシュートが決まり、ついに同点に追いつく。岐阜総合も⑧馬淵、⑬酒井がインサイドで力強いプレーを見せるが、相手のゾーンディフェンスに対してアウトサイドシュートが決まらない。高山西2点リードで第4ピリオドを迎える。第4ピリオドに入っても、高山西は⑥室谷が次々にジャンプシュートを決める。1点差に追いつかれた場面でも④杉山が3点シュートを決め、最後は⑤虎井がフリースローを冷静に2本とも決め、接戦に終止符を打ち決勝リーグの2勝目をあげた。岐阜総合もゾーンプレスを仕掛け、⑫前田、⑥安田のシュートで追い上げたが、届かなかった。(市川 学)

決勝 リーグ	岐阜女子	105	$\begin{bmatrix} 30 - 10 \\ 28 - 6 \\ 23 - 13 \\ 24 - 18 \end{bmatrix}$	47	高山西	三浦 潔・赤石恵美子
	(3勝)				(2勝1敗)	

岐阜女子はオールコートマンツーマン、高山西は3-2ゾーンディフェンスでスタートする。岐阜女子は⑤水谷、⑰荒井を中心に粘り強いディフェンスからボールを奪い、⑤水谷の3点シュート、⑦汪のポストプレー、④伊藤のドライブ、⑥茅谷のジャンプシュートと多彩な攻撃を見せ、得点を伸ばす。高山西も⑦畦地を軸に必死の反撃を試みるが、苦しい体勢のシュートが続く。第2ピリオドに入っても、岐阜女子は⑦汪がインサイドを支配し、次々に得点をあげる。前半は、58-16と岐阜女子が大きくリードして折り返す。

第3ピリオドに入っても岐阜女子はディフェンスの足を止めず、攻めては⑭宮部、⑥茅谷が次々にシュートを決める。第4ピリオドも岐阜女子のペースは変わらず、速いパス回しから⑩角島、④伊藤の3点シュートが決まり、最後まで主導権を渡すことなく、岐阜女子が3戦全勝で新人大会の優勝を飾った。高山西も必死のディフェンスを見せ、⑦畦地のジャンプシュートや⑥室谷の3点シュートなどで反撃するが、最後まで相手の厳しいディフェンスに苦しんだ。(岩水みね代)

決勝 リーグ	岐阜総合	79	$\begin{bmatrix} 18 - 14 \\ 24 - 20 \\ 29 - 15 \\ 8 - 22 \end{bmatrix}$	71	県岐阜商	相宮俊郎・宮崎泰彦
	(1勝2敗)				(3敗)	

ともに2敗で、東海大会出場権をかけた試合は、両チームともハーフコートマンツーマンで始まる。岐阜総合は⑥安田、⑫前田の3点シュートを中心に⑧馬淵のリバウンドシュート、④嶋内のジャンプシュートなどでリズムよくスタート。県岐阜商は思うようにシュートが決まらず、ターンオーバーを重ねリズムがつかめないが、⑤梶野のドライブ、⑨山北のミドルシュートで必死に追いつがる。第1ピリオドは18-14と岐阜総合が一步リードする。第2ピリオドに入っても岐阜総合は⑫前田が3本、⑥安田が3本の3点シュートを決め、42-34とリードを8点に広げ前半を折り返す。県岐阜商も⑨山北、⑤梶野が速攻に走り得点を重ねるも、リバウンドを支配され思うようなゲーム展開とならない。

第3ピリオド、岐阜総合は⑧馬淵のゴール下シュート、⑫前田のジャンプシュート、そして⑥安田がこの試合8本目の3点シュートを決めるなどして得点を伸ばし、さらに途中からオールコート1-2-1-1ゾーンで相手の出足を封じて、一気に71-49と22点差をつけて第4ピリオドを迎える。勝利へのプレッシャーからか硬さの見える岐阜総合に対して、県岐阜商は⑬吉田の3点シュート、⑪前田、⑤梶野のリバウンドシュートで猛烈な追い上げを見せ、一時は6点差となる。しかし岐阜総合は苦しい場面で⑬酒井がリバウンド、速攻、ジャンプシュートと頑張りを見せる。岐阜総合は最後まで勝利への執念を見せて、79-71で勝利し、念願の初の東海大会出場権を獲得した。(井口貢志)